資料１

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

平成２８年８月４日

Scenic Byway HOKKAIDO

（1）ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2015

Scenic Byway HOKKAIDO

平成２０年度から、シーニックバイウェイ北海道の推進に向け、他の模範となる活動で、将来への発展性が高く評価できる取組を選出・表彰する取組。

最優秀賞

▼2014

「ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）育成事業」（トカプチ雄大空間）

▼2013

「タカラモノプロジェクト」（支笏洞爺ニセコルート）

▼2012

「トカプチまる得めぐり券事業」（トカプチ雄大空間）

▼2011

「学校シーニックバイウェイ」（南十勝夢街道）

▼2010

「ヒラメ底建網オーナーin遠別」（萌える天北オロロンルート）

▼2009

「ウィンターサーカス」（大雪・富良野ルート）

▼各賞決定までの流れ

募集開始

↓

各ルートから活動の応募

↓

■活動団体賞

各ルートによる投票

※対象：指定及び候補ルート
※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出

↓

■部門賞、最優秀賞

ルート審査委員会にて審査

※対象：指定ルート
※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出

↓

推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

（1）ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2015

Scenic Byway HOKKAIDO

＜表彰＞

●活動団体賞１件（指定･候補ルートを対象）　【エントリー数　14件】　P-8

●部門賞３件（指定ルートを対象）

＜エントリー部門＞

①美しい景観づくり賞　【エントリー数　4件】　P-10
②活力ある地域づくり賞　【エントリー数　3件】　P-12
③魅力ある観光空間づくり賞　【エントリー数　6件】　P-14

※部門賞は、部門毎に１件とし最大３件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。

●最優秀賞「ベスト･シーニックバイウェイズ･プロジェクト2015」１件（指定ルートを対象）
部門賞の中から１件選出

＜評価の視点＞

地域の資源を発見･活用し、有形･無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

－部門賞及び大賞－

○ 持続性（取組の継続性の程度を評価）
○ 浸透性（地域内への広がりの程度を評価）
○ 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
○ 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
○ 先進性（新しいものに取組んでいく姿勢の程度を評価）
○ 効果性（定量的･定性的な効果の程度を評価）
○ 人材育成

（1）ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2015

Scenic Byway HOKKAIDO

▼活動団体賞〔エントリー14件〕

No.	活動名【ルート名】	点数	ルートからのコメント（代表的コメント）
1	道南・道央エリアの広域周遊に向けた可能性調査 シーニックバイウェイ道南・道央五十三次トランプ制作 ※支笏洞爺ニセコルート等４ルート共同	10	・トランプを使った地域資源の可視化という新しい切り口が斬新。
2	ゴミゼロキャンペーン【大雪・富良野ルート】	9	・環境保全としてゴミ拾いを11年続いていることを評価。
3	大雪ぐるっと広域事業【大雪・富良野ルート】	14	・広域連携事業は、将来的に各ルートの手本となる。
4	シーニックデッキの設置【東オホーツクシーニックバイウェイ】	7	・シーニックデッキにこだわった活動の継続、特にマルシェなど「道の駅」の活用を評価。
5	ルート内拠点周辺観光に関する調査研究 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	3	・新しい景勝地の発掘につながる。
6	彩りプロジェクト【宗谷シーニックバイウェイ】	12	・地道に継続する仕組みを確立している点を評価。
7	そらの森の植樹活動 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	20	・障がい者の参加など、地域に根づいた取り組みに展開しているところを評価。
8	包括連携協定企業と連携したPR活動 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	6	・レンタカーとの連携が良く、参考になった。
9	**ウエルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト ※函館・大沼・噴火湾ルート等2ルート共同**	**21 【◎】**	・新幹線開業の盛り上げイベントとして機能していた。
10	萌え天「食」のイベントプロジェクト 【萌える天北オロロンルート】	16	・「萌天焼」は美味しく面白く楽しめる、笑顔の見える取り組みであるところを評価。
11	トカプチ情報ボックス事業【トカプチ雄大空間】	3	・統一のデザインの棚が十勝をイメージさせて良い。
12	フォトコンテスト＆カレンダー【南十勝夢街道】	9	・当初からの継続力を評価。　写真のクオリティが高い。
13	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルートカレンダー2016【藻岩山麓・定山渓ルート】	6	・ルートイメージの普及に効果的。
14	新たな景観ポイントの創出【層雲峡・オホーツクSBW】	4	・取り組んでみたい活動。新名所の創造。

活動団体賞（候補）

様式 （★指定･候補ルート共通）

Scenic Byway HOKKAIDO

活動名称	ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト
エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	函館･大沼･噴火湾ルート、どうなん･追分シーニックバイウェイルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

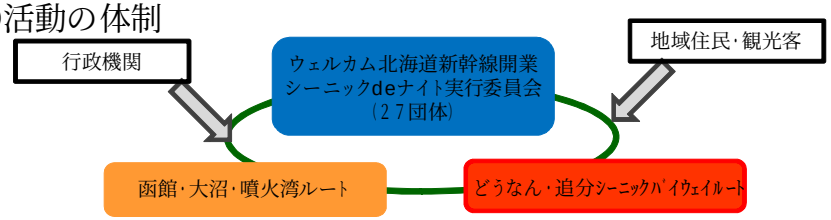
●活動の目的・目標

手作りのワックスキャンドルで道路沿線などにあかりを灯すイベント「シーニックdeナイト」が、平成１８年度から函館・大沼・噴火湾ルートでスタートし、どうなん・追分シーニックバイウェイルートも平成２２年度から「どうなんシーニックdeナイト」として実施。今年度、各ルートで通年行われているシーニックdeナイトを継続実施する一方、新幹駅として新しく誕生する新函館北斗駅・木古内駅のエリアで活動する両ルートが連携した事業として、「ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト」を新たに企画。本事業は、北海道新幹線が開業する３月２６日、新幹線で来られる観光客への「おもてなし」と長年地域が切望し続けた「喜びの気持ち」を、地域全体で気運を高めながら、全て手作りによるワックスキャンドルに想いを込め、新函館北斗駅・木古内駅・函館駅の3駅にて、おもてなしイベントを同時開催するもの。新幹線開業イベントが様々な機関・団体等に行われている中、3駅同時に開催するイベントは本事業のみ。

●活動内容

北海道新幹線開業日夜（１９：００～２２：３０）、全て手作りのワックスキャンドルを、新函館北斗駅に５００本、木古内駅に４００本、函館駅に４００本、計１，３００本設置点灯した。このワックスキャンドルを作るために必要な牛乳パック（１Ｌ）を収集するため、函館市地域交流まちづくりセンターなど計１１箇所（函館ルート及びどうなんルート内）に回収箱を設置し、地元コミュニティラジオや新聞等を通じ地域に発信することで、１、９８６本の牛乳パックを収集した。さらに、地域住民や観光客が自由に参加できるワックスキャンドル製作体験会を２回（函館朝市ひろば、木古内保育園）実施し、計１、３９２本のワックスキャンドルを製作。加えて、全てのワックスキャンドルは、地域住民や関係者等からの思い思いのメッセージ付きのものとなっており、道南地域全体で連携、気運を高めながら、おもてなしの心を醸成した。当日には、新幹線で来られる観光客をおもてなしするためのキャンドル設置点灯の他、ポンポンや手旗、記念撮影用ボード、ノベルティを準備。

②活動の体制



▲新函館北斗駅（3/26）

▲木古内駅（3/26）

▲函館駅（3/26）

▲キャンドル製作体験会
in木古内保育園

③ＰＲポイント

●工夫した点、苦労した点

・実行委員会やルート関係者間の情報共有ツールとして、イベント当日に向けた現在の進捗状況等をまとめた「キャンドル通信」を計６回作成し、配信。
・地域住民や観光客に対して、牛乳パックの回収やキャンドル製作体験会開催などの情報を、地元コミュニティラジオや新聞（計11回）、テレビ、ポスター・チラシを通じ発信。

●活動の効果

・キャンドル製作体験会やキャンドルメッセージ入れなどの事業準備段階から、道南地域全体（函館ルート及びどうなんルート）で、子供から大人まで幅広い層の関係者（地域住民や観光客など）が一体となって事業を実施することができ、次年度以降のルート連携事業のモデルとすることができた。

▲チラシ･ポスター

▲函館新聞（2/28）

▲キャンドル通信（計６回）

▲キャンドル製作体験会
in函館朝市ひろば

▲おもてなし風景in函館駅

（1）ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2015

Scenic Byway HOKKAIDO

▼部門賞　① 美しい景観づくり部門〔エントリー 4件〕

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	ゴミゼロキャンペーン 【大雪･富良野ルート】	14	･長期間の継続を評価。 ･地道だけれど貴重な活動。着実に輪が広がっていることも評価できる。 ･ゴミを拾う過程で他の何かの資源を発見したり、小中学生を巻き込んだ活動とするとなお良い。 ･地道な努力、11年間継続してやりつづけることの難しさを察します。今後も続けてください。
2	**シーニックデッキの設置 【東オホーツクシーニックバイウェイ】**	**19 【◎】**	･コミュニティビジネス等との連携を試みていることを評価。 ･新たな視点場を作るという意味で、シーニックでは重要な活動。長年の活動実績により箇所数も充実し、マルシェの実施等の活動も評価できる。 ･シーニックデッキの常設化とその運営が評価できる。マルシェとの連携もよい。 ･人の賑わい生産物販売機械が膨らむ「シーニックマルシェ」の発展に期待。 ･シーニックデッキとマルシェが定着して全国に発信できるようになったことを評価します。
3	彩りプロジェクト 【宗谷シーニックバイウェイ】	7	･長期間の継続性を評価。 ･地味だけれど着実に進化してきている。 ･親子イベントとして、小幼児を巻き込んでの「旅育」の機会になるので、継続と更なる運営の工夫が必要。
4	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓･定山渓ルートカレンダー2016 【藻岩山麓･定山渓ルート】	10	･継続性が評価できる。 ･何をどう見せるかの企画コンセプトと写真のクオリティ向上の取組が課題。 ･カレンダーの作成を継続的に行っていることが評価します。今後はただ配布するのではなく、収入源につながる工夫を期待。

① 美しい景観づくり部門　部門賞（候補）

様式　（★指定･候補ルート共通）

活動名称	シーニックデッキの設置	エントリー部門	美しい景観づくり
ルート名称	東オホーツクシーニックバイウェイ		

①活動概要

●活動の目的・目標：

景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東 オホーツク地域全体の景観ＰＲをはじめ地域との 交流を促進します。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も 高め、更に道路利用者のオアシスとして交通安全に 寄与させます。

●活動内容：

常設されているウトロポケットパーク、メーメーベーカリー（斜里）の他、あばしりフロックス公園、メルヘンの丘（女満別）、季風 クラブ（ウトロ）、コスモスロード（上斜里）、コミット（清里）、斜里岳山小屋清岳荘（清里）、小清水リリーパークに置いて地域交流、休憩、良好景観鑑賞用のウッドデッキを春～秋にかけて設置して います。また、シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している 数カ所から人の多く集まる箇所にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催しています。

●活動期間：

平成１７年度～（マルシェは上斜里コスモスロードでの試行を含め平成１９年度～）

シーニックデッキ（あばしりフロックス公園）

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等

【デッキ設置・撤去】網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、清里町商工会 、きよさと観光協会、上斜里 フラワーロード　　推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、知床斜里町観光 協会

【マルシェ】上記の活動団体の他、ルート内の農商工業者（出店者。１０団体 /年程度）

③ＰＲポイント

利用促進のため、マルシェやルートマップ、ＨＰやＳＮＳを活用してルート内外への取り組みと設置場所・時期の周知を行ないました。ルート内の新たな景観資源となりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上、農商工業者の新たな販売機会を創出することができました。デッキの老朽化による補修と維持に係る体制の確立を重点的に行っていきます。

シーニックマルシェ（道の駅パパスランドさっつる）

（1）ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2015

Scenic Byway HOKKAIDO

▼部門賞　② 活力ある地域づくり部門〔エントリー 3件〕

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	**そらの森の植樹活動 ～地域で育てる森プロジェクト～ 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】**	**24 【◎】**	・市町村を越え、長期間に亘り、森林再生という景観・環境基盤を創り出していることを評価。 ・景観を創造する活動を多くの人が参加して、継続していることが評価できる。ドングリやクルミを拾い苗木づくりを行っている点も良い。 ・ドングリ拾いから植樹、そして維持まで、一環性ある活動の成果が見えるようになってきた。継続と輪が広がってきていて、それに向けた努力に敬意。小さいとはいえ、資金集めにも注力。 ・シーニックカフェ収益の還流成功がポイント。地域を育てる＝交流・活動の輪の拡大。 ・エコシステムとして確立してきたことを評価します。今後更なる継続と拡大を目指し収入を上げることを工夫してください。
2	萌え天「食」のイベントプロジェクト 【萌える天北オロロンルート】	13	・食と連携し、地域ビジネスへの挑戦を評価。 ・アイディアはよいが成果が出てくるのはこれからのように思える。 ・食材にフォーカスした取組は評価。新しい売れる食材の開発と定着が課題。 ・食に目をつけて即実行している点を評価します。ヒラメオーナー制度と合体させることで、更なる拡がりを期待しています。毎回新しい取組に挑戦すること自体が地域資源になっています。
3	フォトコンテスト＆カレンダー 【南十勝夢街道】	13	・長期間の継続がもたらした写真データベース・「ハードルが高い」という評価は素晴らしい。活用の方法・知恵についても磨きがかかってきた。 ・フォトコンテストを通じた作品の質の向上に成功。競争力あるカレンダーに成長することを期待。 ・カレンダーの販売は事業の継続性に大きな貢献をしており、収入拡大につなげてください。

② 活力ある地域づくり部門　部門賞（候補）

Scenic Byway HOKKAIDO

様式1 （★指定・候補ルート共通）

活動名称	そらの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ		

①活動概要

●活動の目的・目標：国道241号沿線の森づくりを通じて、美しい景観づくりを進めるだけでなく、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの各活動の連携、市町村堺を越えた地域の連携、年齢や障がいの有無を越えたつながりを強め、地域全体の活力を向上させる。

●活動内容：そらの森（弟子屈飛行場跡地：弟子屈町）での森林再生を目指した森づくり。

●活動期間：平成22年度～平成27年度（6年目）。

平成27年度の植樹イベントの様子

②活動の体制

移植作業の様子
（木の実がこんなに大きく成長）

③ＰＲポイント

【工夫した点】生長まで継続的に活動を行うための資金（苗木代、維持費）の確保が課題であった。

●苗木の植樹活動、育成活動を継続できるよう、ドングリやクルミを弟子屈町内から拾い集め、種まきを行い、苗木づくりを行っている。
→ 初年度に植えた幼木が植樹できる大きさまで伸びている
→ シーニック森として植樹する際の苗木として活用し、苗木代を森の維持費に転用している

●植樹活動、育成活動の継続のため、当該ルートで実施しているシーニックカフェプロジェクトと連携し、苗木の支援費を含んだオリジナルエコバック、オリジナルタンブラーをシーニックカフェで販売している。
→ タンブラーは毎年30個程度の売り上げがあり、継続的な活動に一役かっている

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
「樹になるタンブラー」の販売

【活動の成果】

●共同での植樹活動を通じて、普段触れ合わない人々が触れ合い、活動の輪が広がっている。

●長い時間を要するが、地域の方が自ら育て、地域の方に愛される景観が少しずつ育っている。

（1）ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2015

Scenic Byway HOKKAIDO

▼部門賞　③ 魅力ある観光空間づくり部門〔エントリー 6件〕

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	道南･道央エリアの広域周遊に向けた可能性調査 シーニックバイウェイ道南･道央五十三次トランプ制作 ※支笏洞爺ニセコルート等４ルート共同	11	･４ルートと連携した広域周遊への試みを評価（今後は英語バージョン？）。 ･広域連携の新しい追求。トランプ政策だけでは寂しい。広域ルートの観光系プロジェクトとして再構成できないでしょうか。 ･４つの広域連携による「五十三次トランプ」という着眼点を評価。今後の展開に期待。
2	大雪ぐるっと広域事業 【大雪･富良野ルート】	5	･これからの事業。成果が不明。 ･広域連携事業のトライアルで、新しい付加価値の発見と開拓に期待。 ･グルメ、サイクルツーリズムなど、注目の取組が満載ですが、今後の展開にかかっていますので、より具体的な成果に期待。
3	ルート内拠点周辺観光に関する調査研究 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	3	･地味だけれど、重要な活動。観光セクターとのさらなる具体的連携があればなお良い。 ･観光客の動向調査、行動分析はツーリズム政策にとって基本中の基本。
4	包括連携協定企業と連携したPR活動 【釧路湿原･阿寒･摩周SBW】	9	･民間企業との連携は素晴らしいが、トヨタレンタリースだけというのは寂しい。観光セクターとのさらなる連携を望む。 ･民間企業との連携事業に成功モデルを求めるのは新しい試みであり、成功を祈りたい。 ･民間企業との協同･連携の取組は北海道のシーニックのモデル事業になる可能性が高く、今後の展開に期待しています。
5	**ウエルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト** **※函館･大沼･噴火湾ルート等2ルート共同**	14 【◎】	･２ルート、３駅での連携を評価。 ･新幹線開業日に3駅で同時開催したことはインパクトがある。 ･広域の取り組みとしては評価できる。観光セクターとの連携があればさらによい。 ･開業を果たした北海道新幹線を今後商業ベースで活用する対策が最も重要課題。 ･3駅同時イベント実現は評価。初年度だけにならない様に今後の成り行きを見守ってます。
6	トカプチ情報ボックス事業 【トカプチ雄大空間】	8	･情報ボックスを数多く設置し、配送、在庫確認、補充をシステム化したことは評価できる。 ･地道な活動だけれども、着実の成果が出ているし、拡大してきている。評価できる。 ･広報ツール　パンフレットの流通対策は活動の基本中の基本。

③ 魅力ある観光空間づくり部門　部門賞（候補）

様式 （★指定･候補ルート共通）

Scenic Byway HOKKAIDO

活動名称	ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	函館･大沼･噴火湾ルート、どうなん･追分シーニックバイウェイルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

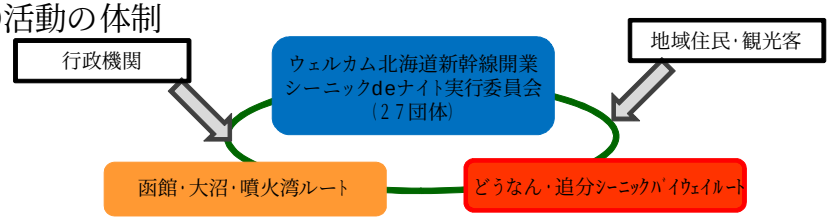
●活動の目的・目標

手作りのワックスキャンドルで道路沿線などにあかりを灯すイベント「シーニックdeナイト」が、平成１８年度から函館・大沼・噴火湾ルートでスタートし、どうなん・追分シーニックバイウェイルートも平成２２年度から「どうなんシーニックdeナイト」として実施。今年度、各ルートで通年行われているシーニックdeナイトを継続実施する一方、新幹駅として新しく誕生する新函館北斗駅・木古内駅のエリアで活動する両ルートが連携した事業として、「ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト」を新たに企画。本事業は、北海道新幹線が開業する３月２６日、新幹線で来られる観光客への「おもてなし」と長年地域が切望し続けた「喜びの気持ち」を、地域全体で気運を高めながら、全て手作りによるワックスキャンドルに想いを込め、新函館北斗駅・木古内駅・函館駅の3駅にて、おもてなしイベントを同時開催するもの。新幹線開業イベントが様々な機関・団体等に行われている中、3駅同時に開催するイベントは本事業のみ。

●活動内容

北海道新幹線開業日夜（１９：００～２２：３０）、全て手作りのワックスキャンドルを、新函館北斗駅に５００本、木古内駅に４００本、函館駅に４００本、計１，３００本設置点灯した。このワックスキャンドルを作るために必要な牛乳パック（１Ｌ）を収集するため、函館市地域交流まちづくりセンターなど計１１箇所（函館ルート及びどうなんルート内）に回収箱を設置し、地元コミュニティラジオや新聞等を通じ地域に発信することで、１、９８６本の牛乳パックを収集した。さらに、地域住民や観光客が自由に参加できるワックスキャンドル製作体験会を２回（函館朝市ひろば、木古内保育園）実施し、計１、３９２本のワックスキャンドルを製作。加えて、全てのワックスキャンドルは、地域住民や関係者等からの思い思いのメッセージ付きのものとなっており、道南地域全体で連携、気運を高めながら、おもてなしの心を醸成した。当日には、新幹線で来られる観光客をおもてなしするためのキャンドル設置点灯の他、ポンポンや手旗、記念撮影用ボード、ノベルティを準備。

②活動の体制



③ＰＲポイント

●工夫した点、苦労した点

・実行委員会やルート関係者間の情報共有ツールとして、イベント当日に向けた現在の進捗状況等をまとめた「キャンドル通信」を計６回作成し、配信。
・地域住民や観光客に対して、牛乳パックの回収やキャンドル製作体験会開催などの情報を、地元コミュニティラジオや新聞（計11回）、テレビ、ポスター・チラシを通じ発信。

●活動の効果

・キャンドル製作体験会やキャンドルメッセージ入れなどの事業準備段階から、道南地域全体（函館ルート及びどうなんルート）で、子供から大人まで幅広い層の関係者（地域住民や観光客など）が一体となって事業を実施することができ、次年度以降のルート連携事業のモデルとすることができた。

▲新函館北斗駅（3/26）

▲木古内駅（3/26）

▲函館駅（3/26）

▲キャンドル製作体験会
in木古内保育園

▲チラシ･ポスター

▲函館新聞（2/28）

▲キャンドル通信（計６回）

▲キャンドル製作体験会
in函館朝市ひろば

▲おもてなし風景in函館駅

（1）ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2015

Scenic Byway HOKKAIDO

▼部門賞

①景観づくり賞　　**シーニックデッキの設置**
〔ｴﾝﾄﾘｰ4件〕　（東オホーツクシーニックバイウェイ）

②地域づくり賞　　**そららの森の植樹活動 -地域で育てる森プロジェクト-**
〔ｴﾝﾄﾘｰ3件〕　（釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ）

③観光空間づくり賞　**ウェルカム北海道新幹線開業シーニック de ナイト**
〔ｴﾝﾄﾘｰ6件〕　（函館・大沼・噴火湾ルート、どうなん・追分シーニックバイウェイルート共同申請）

▼最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」

ルート審査委員会から次のプロジェクトを推薦を拝受

⇒そららの森の植樹活動　～地域で育てる森プロジェクト～

■選出理由及び今後の発展に向けての期待

本取組は、苗木の植樹活動、育成活動を継続できる様に、ドングリやクルミを拾い集め、種をまき育て、植栽するといった独自のエコサイクルを確立し、長年に亘る活動を評価。

今後、この独自のエコサイクルが北海道に根付くことに期待する。

最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」（候補）

Scenic Byway HOKKAIDO

様式1（★指定・候補ルート共通）

活動名称	そらの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ		

①活動概要

●活動の目的・目標：国道241号沿線の森づくりを通じて、美しい景観づくりを進めるだけでなく、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの各活動の連携、市町村堺を越えた地域の連携、年齢や障がいの有無を越えたつながりを強め、地域全体の活力を向上させる。

●活動内容：そらの森（弟子屈飛行場跡地：弟子屈町）での森林再生を目指した森づくり。

●活動期間：平成22年度～平成27年度（6年目）。

平成27年度の植樹イベントの様子

②活動の体制

移植作業の様子
（木の実がこんなに大きく成長）

③ＰＲポイント

【工夫した点】生長まで継続的に活動を行うための資金（苗木代、維持費）の確保が課題であった。

●苗木の植樹活動、育成活動を継続できるよう、ドングリやクルミを弟子屈町内から拾い集め、種まきを行い、苗木づくりを行っている。
→ 初年度に植えた幼木が植樹できる大きさまで伸びている
→ シーニック森として植樹する際の苗木として活用し、苗木代を森の維持費に転用している

●植樹活動、育成活動の継続のため、当該ルートで実施しているシーニックカフェプロジェクトと連携し、苗木の支援費を含んだオリジナルエコバック、オリジナルタンブラーをシーニックカフェで販売している。
→ タンブラーは毎年30個程度の売り上げがあり、継続的な活動に一役かっている

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
「樹になるタンブラー」の販売

【活動の成果】

●共同での植樹活動を通じて、普段触れ合わない人々が触れ合い、活動の輪が広がっている。

●長い時間を要するが、地域の方が自ら育て、地域の方に愛される景観が少しずつ育っている。

添付資料

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015　応募一覧

NO	ルート名称	活動名称	エントリー部門	活動年数	活動年
①	大雪･富良野ルート	ゴミゼロキャンペーン	①美しい景観づくり	11年（H17～）	05,06,07,08,09,10,11,12,13,14,15
②	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	①美しい景観づくり	11年（H17～）	05,06,07,08,09,10,11,12,13,14,15
③	宗谷シーニックバイウェイ	彩りプロジェクト	①美しい景観づくり	9年（H19～）	07,08,09,10,11,12,13,14,15
④	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓･定山渓ルート	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓･定山渓ルートカレンダー2016	①美しい景観づくり	5年（H23～）	11,12,13,14,15
⑤	層雲峡･オホーツクシーニックバイウェイ	新たな景観ポイントの創出	①美しい景観づくり	4年（H24～）	12,13,14,15
⑥	支笏洞爺ニセコルート/函館･大沼･噴火湾ルート/札幌シーニックバイウェイ　藻岩山麓･定山渓ルート/どうなん･追分シーニックバイウェイルート	道南･道央エリアの広域周遊促進に向けた可能性調査 ～シーニックバイウェイ道南･道央五十三次トランプ製作による地域資源の可視化～	②魅力ある観光空間づくり	2年(H26～)	14,15
⑦	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内拠点周辺観光に関する調査研究	②魅力ある観光空間づくり	9年（H19～）	07,08,09,10,11,12,13,14,15
⑧	釧路湿原･阿寒･摩周シーニックバイウェイ	包括連携民間企業と連携したPR活動の実施	②魅力ある観光空間づくり	3年（H25～）	13,14,15
⑨	函館･大沼･噴火湾ルート/どうなん･追分シーニックバイウェイルート	ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト	②魅力ある観光空間づくり	10年（H18～）	06,07,08,09,10,11,12,13,14,15
⑩	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	トカプチ情報ボックス事業	②魅力ある観光空間づくり	4年（H24～）	12,13,14,15
⑪	大雪･富良野ルート	大雪ぐるっと広域事業	③活力ある地域づくり	4年（H24～）	12,13,14,15
⑫	釧路湿原･阿寒･摩周シーニックバイウェイ	そららの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～	③活力ある地域づくり	6年（H22～）	10,11,12,13,14,15
⑬	萌える天北オロロンルート	萌え天『食』のイベントプロジェクト	③活力ある地域づくり	10年（H18～）	06,07,08,09,10,11,12,13,14,15
⑭	十勝シーニックバイウェイ 南十勝夢街道	フォトコンテスト＆カレンダー	③活力ある地域づくり	10年（H18～）	06,07,08,09,10,11,12,13,14,15

ベスト
シーニックバイウェイズ
プロジェクト2015
応募プロジェクト一覧

様式1　(★指定･候補ルート共通)　①

活動名称	道南･道央エリアの広域周遊促進に向けた可能性調査 ～シーニックバイウェイ道南･道央五十三次トランプ製作による地域資源の可視化～	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	支笏洞爺ニセコルート／函館･大沼･噴火湾ルート／札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓･定山渓ルート／どうなん･追分シーニックバイウェイルート		

①活動概要

2016年3月に開通した新青森・新函館北斗間の新幹線の二次交通としての広域周遊ドライブ観光の促進が今後の重要課題として議論されてきた。そこで、「道央・道南ブロック会議」に関連する４ルート（支笏洞爺ニセコルート／函館・大沼・噴火湾ルート／札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート／どうなん･追分シーニックバイウェイルート）の広域周遊促進の可能性を検証するとともに、地域資源の再発掘および周遊ルートなどについて検討を行った。さらに、それら資源をまとめた「シーニックバイウェイ道南・道央五十三次トランプ」の製作を通じて、４ルート間のつながりを深め、北海道新幹線開通後の本格的なドライブ観光の周遊促進につなげることを目的としている。

●各ルート内における周遊促進に活用できそうな地域資源発掘調査
・平成26年2月に支笏洞爺ニセコルート（支笏湖温泉）で行われた「道央・道南ブロック会議（平成26年2月開催）」４ルートの周遊促進ルートの検討結果等を参考に、各ルート内の周遊立ち寄り施設および景観ポイント、その他地域資源（お土産など）等地域資源の発掘調査を行った。”道南・道央五十三次”各ルート13か所の宿場町（みどころ等）を推薦。

●ルート周知・プロモーションツール（道南・道央五十三次トランプ）の作成
・上記推薦より、ルート周知・プロモーションツールとして道南・道央エリア及び当該地域における広域周遊促進に向けた「道南・道央五十三次トランプ」を作成。

●協賛企業の募集
・沿道の景観を守り美しいドライブルートを創出するための活動資金として企業協賛を募集
（協賛金額一口1,000円：応募無し）

【4ルート合同によるワークショップの開催】

【トランプ実例：支笏洞爺ニセコルート】

②活動の体制

●支笏洞爺ニセコルート
●函館・大沼・噴火湾ルート
●札幌シーニックバイウェイ
　　藻岩山麓・定山渓ルート
●どうなん･追分シーニックバイウェイルート

③ＰＲポイント

【苦労した点や工夫した点】
・広域かつ複数ルートの連携であることから、会議や活動スケジュール等も多きに渡り、ひとつひとつの事業の進行に時間を要した。
・企業協賛を募集を行ったが、見本等が無いなかでの募集であったこともあり応募がなかった。
・今後、協賛企業等をどのように獲得していくかの課題が残った。

【活動の効果】
・4ルート合同での広域連携は、初めての試みであり、厳選された13箇所は、各ルートの大切な資源として共有された。
・合同会議に加え、事務局によるルート訪問やメール等でのやりとりなど、これまで無かった新たな情報交流が図られた。

【今後の活動予定等】
○統一した販売ルールの設定および各ルートでの試験販売
○お土産品や情報発信ツールとしてのニーズや効果の検証
※上記の推進により、今後の広域周遊ドライブ観光の促進に資する広域連携のあり方を模索していきたい。

活動名称	ゴミゼロキャンペーン	エントリー部門	美しい景観づくり
ルート名称	大雪・富良野ルート		

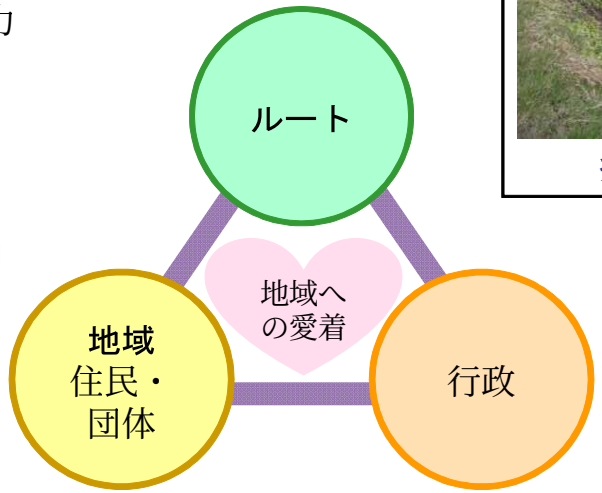
①活動概要

沿道の清掃活動「ゴミゼロキャンペーン」は、平成１７年度にシーニック「集中活動月間」の取組がきっかけに始まり、続けている活動です。平成２７年度で１１回目となりました。毎年、雪解けで沿道のゴミが特に目立つ４月下旬から５月３０日（５．３０ゴミゼロ）までの約１ヶ月をキャンペーン期間として、旭川市西神楽と上富良野町で関係行政機関と連携して沿道の清掃活動を行っています。この活動には、毎年２００人以上が関わっており、参加者は少しずつ増加し、清掃範囲も広がってきています。

②活動の体制

◆ルート・・・・・・・・企画調整
◆行政機関・・・・・・・実施サポート及び参加協力
◆地域住民及び団体・・・参加協力

旭川市西神楽・参加者の皆様



拾い始めると、ゴミ袋はすぐにいっぱいになってしまいます。

たくさんのゴミがあり、分別作業にも人手が必要です。

③ＰＲポイント

【苦労した点・工夫した点】

●多くの地域・団体が参加できるように、１日限定の一斉活動ではなく約１ヶ月間のキャンペーン期間とした。また、さまざまな者が参加できるように地域から声かけを行い、行政連絡会議の協力も得ている。

【活動の効果】

●参加しやすい活動を通して、さまざまな機関・団体が関わり、目に見える活動を行うことでシーニックバイウェイの普及に繋がっている。
●参加者も続けていく中で徐々に増え、国道沿道にとどまらず道道・町道へと清掃エリアの拡大ができている。
●継続することによって、地域の取組として定着化した。

時には、風景を楽しみながらゴミ拾いします！

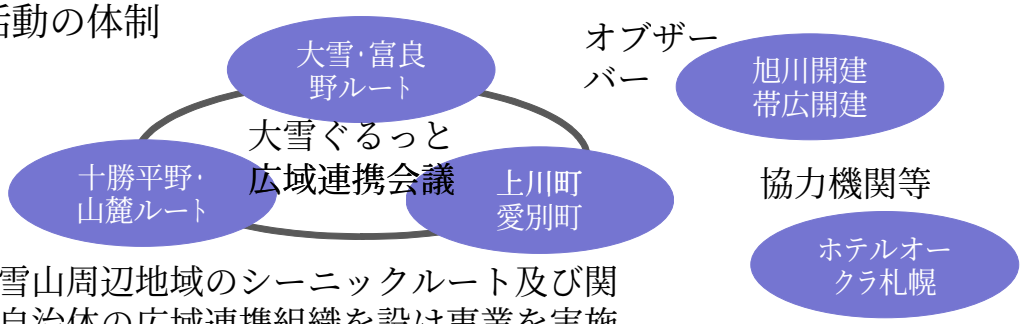
活動名称	大雪ぐるっと広域事業	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	大雪・富良野ルート		

①活動概要

平成24年度から大雪山周辺地域が連携し、「大雪ぐるっと広域連携事業」を実施。大雪山を中心とした観光ルートを確立を目指して、大雪ぐるっとマップの作成、大雪山を周遊するモニターツアーの実施、札幌のレストランでの食のフェア、地域イベントでのPR等を実施している。

今年度にて、大雪山を周遊する観光ルートについて、一定の成果、可能性が把握できたことから、大雪ぐるっと事業を実施する会議は今年度で解散し、今後は各地域で取組みを進める。

②活動の体制



大雪山周辺地域のシーニックルート及び関係自治体の広域連携組織を設け事業を実施。

検討会の様子

平成27年モニターツアーの様子

鹿追そば祭りでのPRの様子

③ＰＲポイント

【苦労した点・工夫した点】

- ●連携が超広域のため、お互いの意識の共有や理解を深めるため、各地域持ち回り検討会を定期的に開催するとともに、検討会と一緒に視察を実施した。
- ●事業費を捻出するために、観光振興機構の助成事業に申請するとともに、食のフェアについては、各地域で若干の費用を負担し、事業を推進した。

【取組の効果】

- ●大雪山周遊観光について一定の認知度が高まった。
- ●大雪山周辺の今まで注目された無かった資源等をモニターツアー等で巡り旅行者のアンケート等で評価することで、地域の資源と磨き上げが出来た。
- ●大雪山周辺地域の連携ネットワークを活用し、サイクルツーリズムの取組みもスタートし、大雪山を周遊するサイクリングコースの設定等を今後、実施する予定である。

ホテルオークラ札幌での食フェア「大雪ぐるっとグルメ」の様子

活動名称	シーニックデッキの設置	エントリー部門	美しい景観づくり
ルート名称	東オホーツクシーニックバイウェイ		

①活動概要

●活動の目的・目標：

景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観ＰＲをはじめ地域との交流を促進します。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高め、更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与させます。

●活動内容：

常設されているウトロポケットパーク、メーメーベーカリー（斜里）の他、あばしりフロックス公園、メルヘンの丘（女満別）、季風クラブ（ウトロ）、コスモスロード（上斜里）、コミット（清里）、斜里岳山小屋清岳荘（清里）、小清水リリーパークに置いて地域交流、休憩、良好景観鑑賞用のウッドデッキを春～秋にかけて設置しています。また、シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している数カ所から人の多く集まる箇所にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催しています。

●活動期間：

平成１７年度～（マルシェは上斜里コスモスロードでの試行を含め平成１９年度～）

シーニックデッキ（あばしりフロックス公園）

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等

【デッキ設置・撤去】網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、清里町商工会、きよさと観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、知床斜里町観光協会

【マルシェ】上記の活動団体の他、ルート内の農商工業者（出店者。１０団体/年程度）

③ＰＲポイント

利用促進のため、マルシェやルートマップ、ＨＰやＳＮＳを活用してルート内外への取り組みと設置場所・時期の周知を行ないました。ルート内の新たな景観資源となりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上、農商工業者の新たな販売機会を創出することができました。デッキの老朽化による補修と維持に係る体制の確立を重点的に行っていきます。

シーニックマルシェ（道の駅パパスランドさっつる）

活動名称　ルート内拠点周辺観光に関する調査研究　｜　エントリー部門　魅力ある観光空間づくり

ルート名称　東オホーツクシーニックバイウェイ

①活動概要
「域外来場客の域内滞留時間の増加と購買意欲増進の工夫」に資する目的から、平成１９年度より開催しているシーニックマルシェの開催に併せ、無料の電動アシスト自転車貸し出しコーナー、SBW及びオホーツクEV推進協議会PRコーナーを併設し、立ち寄った観光客に対してそれらの啓発と近郊の隠れた地域資源を巡る自転車観光ルートの提示と参加を促した。アンケート調査を実施し、「寄り道」に対する観光客のニーズ、本取り組みの課題、効果を把握し、今後の体験メニューの改善等に活用します。

②活動の体制
企画・運営：東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議
協力（出店・会場設営・電動アシストサイクル等）：
・東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議構成活動団体
（中心的な役割：網走市観光協会、きよさと観光協会、
知床斜里町観光協会、しれとこウトロフォーラム21）

③ＰＲポイント
・限られた電動アシストサイクルの走行距離を考慮したルート設定や緊急時対応。
・参加者の多様な寄り道ニーズに対応し、且つ隠れた資源に配慮した複数ルート設定。
・体験メニュー内容や設定ルート、電動アシスト自転車の満足度の他、マルシェの購買状況等もアンケートで調査
・近郊の隠れた地域資源を巡る観光やマルシェやに対する客観的なニーズ・評価を得ることが出来、今後の活動方向の指針となる情報を得ました。
・域外の観光客に対するＰＲの強化を進めたいと考えています。

ルート・オホーツクＥＶＰＲ，レンタサイクルコーナー（流氷街道網走）

試乗の様子

■実施概要
・9月12日(土)：道の駅流氷街道網走
・9月１3日(土)：道の駅パパスランドさっつる
・10月4日(日)：道の駅うとろ・シリエトク

↑流氷街道で配布した自転車観光ルート例（網走市観光協会で推奨しているルートに一部加筆）

結果概要

もっと近くのポイントを増やして

域外参加者の７５％はマルシェに満足！

立ち寄りポイント・コース設定の満足度

活動名称　彩りプロジェクト　エントリー部門　美しい景観づくり賞

ルート名称　宗谷シーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標
稚内の玄関口である空港前を花で彩り、お客様を迎え、送り出す。
花の植え方、維持管理の仕方を市民に知ってもらい、彩りあるまちづくりに貢献する。

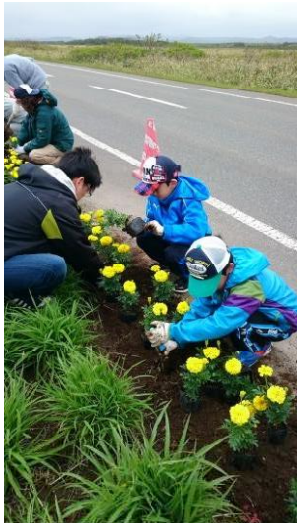
●活動内容
道道稚内空港線の植樹帯を区画割りし、ボランティアで参加した各団体等が受け持ち個所に宗谷総合振興局が調達した花を６月初旬に植栽し、９月下旬まで維持管理を行う。植え方、維持管理の仕方はフラワーマスター稚内の会員が指導する。

●活動期間：平成１９年度～２７年度

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等
参加団体等　２１団体　（区画は２６区画）
参加者数　約１５０人
作業までの流れ
フラワーマスター稚内から日程等を各団体等に連絡
→宗谷総合振興局が花を調達
→一斉植栽、維持管理

【植栽作業①】


【植栽作業②】

③ＰＲポイント

◎初年度の平成１９年度はフラワーマスター稚内単独で行っていたが、観光の玄関口ということを市民にも意識してもらうことや継続性を高めるために一つの団体の労力を減らしつつも活動域を広げるため、区画割りをして受け持ち個所を植栽・維持管理してもらうようにしたところ、現在では２１団体の参加団体等となっている。

◎区画割りをした当初は、花の植え方が雑だったり、維持管理も行わない団体等が多く見られたが、年々しっかりとした植え方になり、まだ１００％とは言えないが綺麗に維持管理してくれる団体等の数も増えてきている。

◎親子連れが年々増加傾向にあり、親子イベントの一つにもなりつつある。

◎宿根草や球根を混ぜ、経費の削減を図るとともにどの時期でも花が見られるような工夫を年々少しずつ続けている。

活動名称	そらの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	釧路湿原･阿寒･摩周シーニックバイウェイ		

①活動概要

●活動の目的・目標：国道241号沿線の森づくりを通じて、美しい景観づくりを進めるだけでなく、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの各活動の連携、市町村堺を越えた地域の連携、年齢や障がいの有無を越えたつながりを強め、地域全体の活力を向上させる。

●活動内容：そらの森（弟子屈飛行場跡地：弟子屈町）での森林再生を目指した森づくり。

●活動期間：平成22年度～平成27年度（6年目）。

平成27年度の植樹イベントの様子

②活動の体制

移植作業の様子
（木の実がこんなに大きく成長）

③ＰＲポイント

【工夫した点】生長まで継続的に活動を行うための資金（苗木代、維持費）の確保が課題であった。

●苗木の植樹活動、育成活動を継続できるよう、ドングリやクルミを弟子屈町内から拾い集め、種まきを行い、苗木づくりを行っている。
→ 初年度に植えた幼木が植樹できる大きさまで伸びている
→ シーニック森として植樹する際の苗木として活用し、苗木代を森の維持費に転用している

●植樹活動、育成活動の継続のため、当該ルートで実施しているシーニックカフェプロジェクトと連携し、苗木の支援費を含んだオリジナルエコバック、オリジナルタンブラーをシーニックカフェで販売している。
→ タンブラーは毎年３０個程度の売り上げがあり、継続的な活動に一役かっている

【活動の成果】

●共同での植樹活動を通じて、普段触れ合わない人々が触れ合い、活動の輪が広がっている。

●長い時間を要するが、地域の方が自ら育て、地域の方に愛される景観が少しずつ育っている。

釧路湿原･阿寒･摩周シーニックバイウェイ
「樹になるタンブラー」の販売

様式1　(★指定･候補ルート共通)

⑧

活動名称	包括連携民間企業と連携したPR活動の実施	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	釧路湿原･阿寒･摩周シーニックバイウェイ		

①活動概要（活動期間：平成27年度～）

●平成27年度はシルバーウィークが長く、道東自動車道が白糠ICに延伸した直後であることから、地域をPRするチャンスであると考えた。

●シーニックバイウェイ北海道が包括連携協定を結んでいる（株）トヨタレンタリース札幌と連携して、夏休みやシルバーウィークの交流人口の増加をめざしたPR活動を行った。

●PR活動を実施するとともに、協働で行うアンケート調査（地域の魅力、レンタカーの利用状況）を行い、連帯感を高めつつ、調査結果を双方で共有して活用した。

ルートのPR活動の実施状況（札幌駅東店）

②活動の体制

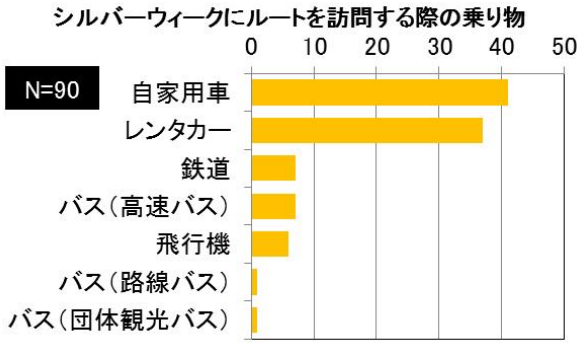
	釧路湿原･阿寒･摩周SBW ←連携・協働→	トヨタレンタリース札幌
地域PR	▲地域PR素材の準備 （パネル、リーフレット、DVD、旗など）	▲PRスペースの提供 ▲必要機器の提供（DVD、机など）
アンケート調査	▲アンケート票の検討、作成 ▲景品（天然水摩周湖）の用意 ▲アンケート調査結果の入力、整理、分析	▲利用者のアンケートへの誘導 ▲アンケート調査結果の保管
成果	◎PRによる地域を訪問する観光客の増加	◎レンタカーを利用する観光客の増加
	◎アンケート調査結果の共有	

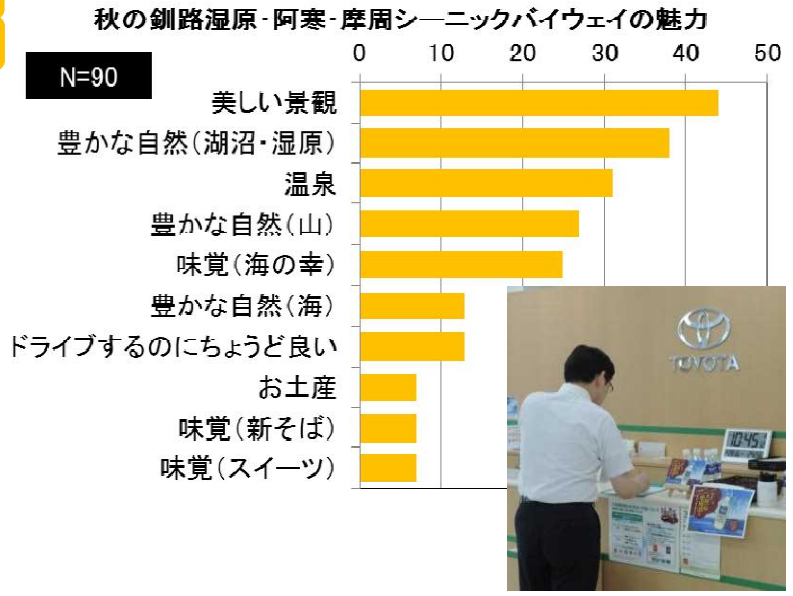
③ＰＲポイント（工夫した点）

●トヨタレンタリース札幌側の担当者との打ち合わせを行い、店舗利用者の属性的な傾向を踏まえて、効果的なPRについてのアドバイスをいただき実施した。

●アンケートを実施することで、平成27年度に長いシルバーウィークがあることのPRを行うとともに、釧路湿原・阿寒・摩周SBWのPRスペースへの誘導を行った。

●アンケートを協働で実施することで、トヨタレンタリース札幌と釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ双方の連帯感を高めた。





アンケート調査結果例（左：ルート訪問時の選択交通、右：ルートの魅力について）

【活動の成果】

◎地域の魅力をPR（交流人口の増加）

⑨

活動名称	ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	函館･大沼･噴火湾ルート、どうなん･追分シーニックバイウェイルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

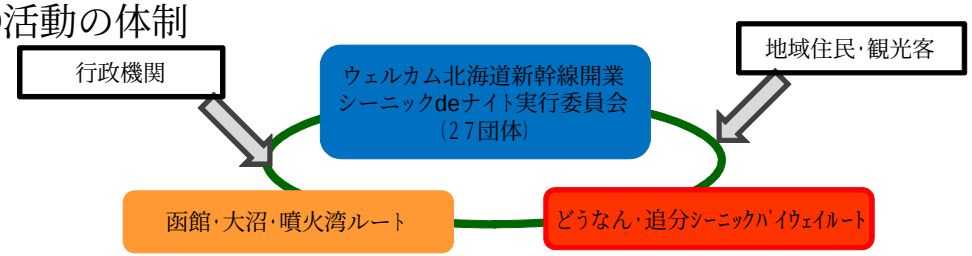
●活動の目的・目標

手作りのワックスキャンドルで道路沿線などにあかりを灯すイベント「シーニックdeナイト」が、平成１８年度から函館・大沼・噴火湾ルートでスタートし、どうなん・追分シーニックバイウェイルートも平成２２年度から「どうなんシーニックdeナイト」として実施。今年度、各ルートで通年行われているシーニックdeナイトを継続実施する一方、新幹駅として新しく誕生する新函館北斗駅・木古内駅のエリアで活動する両ルートが連携した事業として、「ウェルカム北海道新幹線開業シーニックdeナイト」を新たに企画。本事業は、北海道新幹線が開業する３月２６日、新幹線で来られる観光客への「おもてなし」と長年地域が切望し続けた「喜びの気持ち」を、地域全体で気運を高めながら、全て手作りによるワックスキャンドルに想いを込め、新函館北斗駅・木古内駅・函館駅の3駅にて、おもてなしイベントを同時開催するもの。新幹線開業イベントが様々な機関・団体等に行われている中、3駅同時に開催するイベントは本事業のみ。

●活動内容

北海道新幹線開業日夜（１９：００～２２：３０）、全て手作りのワックスキャンドルを、新函館北斗駅に５００本、木古内駅に４００本、函館駅に４００本、計1，３００本設置点灯した。このワックスキャンドルを作るために必要な牛乳パック（１Ｌ）を収集するため、函館市地域交流まちづくりセンターなど計１１箇所（函館ルート及びどうなんルート内）に回収箱を設置し、地元コミュニティラジオや新聞等を通じ地域に発信することで、１、９８６本の牛乳パックを収集した。さらに、地域住民や観光客が自由に参加できるワックスキャンドル製作体験会を２回（函館朝市ひろば、木古内保育園）実施し、計１、３９２本のワックスキャンドルを製作。
加えて、全てのワックスキャンドルは、地域住民や関係者等からの思い思いのメッセージ付きのものとなっており、道南地域全体で連携、気運を高めながら、おもてなしの心を醸成した。当日には、新幹線で来られる観光客をおもてなしするためのキャンドル設置点灯の他、ポンポンや手旗、記念撮影用ボード、ノベルティを準備。

②活動の体制



▲新函館北斗駅（3/26）

▲木古内駅（3/26）

▲函館駅（3/26）

▲キャンドル製作体験会
in木古内保育園

③ＰＲポイント

●工夫した点、苦労した点

・実行委員会やルート関係者間の情報共有ツールとして、イベント当日に向けた現在の進捗状況等をまとめた「キャンドル通信」を計６回作成し、配信。
・地域住民や観光客に対して、牛乳パックの回収やキャンドル製作体験会開催などの情報を、地元コミュニティラジオや新聞（計11回）、テレビ、ポスター・チラシを通じ発信。

●活動の効果

・キャンドル製作体験会やキャンドルメッセージ入れなどの事業準備段階から、道南地域全体（函館ルート及びどうなんルート）で、子供から大人まで幅広い層の関係者（地域住民や観光客など）が一体となって事業を実施することができ、次年度以降のルート連携事業のモデルとすることができた。

▲チラシ･ポスター

▲函館新聞（2/28）

▲キャンドル通信（計６回）

▲キャンドル製作体験会
in函館朝市ひろば

▲おもてなし風景in函館駅

活動名称	萌天『食』のイベントプロジェクト	エントリー部門	活力ある地域づくり賞
ルート名称	萌える天北オロロンルート		

①活動概要

●活動の目的:

ルートストーリーの5つの柱の中核をなす『食』の活用による地域活性化に向け、候補ルート時代から取り組んできた活動を復活、進化させ、『萌天焼』というたこ焼きの開発に取り組んだ。食を通したルート内の連携、そして、地場産品の魅力付けによる活力ある地域づくりを目指す取組みである。

●活動内容:

＜候補ルート時代から続く「食」の活用プロジェクト＞

食材オーナー制度と並び、ルート内の多様な食材に光を当てるプロジェクト。ルート内の個々の食材を繋ぐことで、より付加価値の高い、地元が誇れる商品の開発に取り組んでいる。

＜過去の課題を踏まえ進化させた「萌天焼」＞

開発当時は好評であったが、継続性に課題があった。これを踏まえ、より手間を減らしつつ、食材を活かせる商品の開発として「たこ焼き」の具材を地域の食材にする「萌天焼」の開発に着手し始めた。

●活動期間:九宝御膳（平成18年:候補ルート時代）➡萌天焼（平成27年度）

候補ルート時代に取り組んだ
九宝御膳

イベントで100セット完売！

進化

継続での課題を改善:
課題①手間が大きい
→具材に特化

課題②加工が大変
→食品を一本化

課題③流通経路の確保
→地域イベントの出店で手軽で人気のたこ焼きに着目

ルートの食材を具材にした「萌天焼」

行列が出る人気ぶり♪

②活動の体制

活動団体である萌天サポーターズクラブが中心となって、各地の幹事と連携しながら、食材の検討やイベントでの萌天焼づくり等を行っている。

③PRポイント

●工夫した点や苦労した点

･たこ焼きに適した食材とそうではない食材、各食材での水分量などの条件の違いによる焼き時間の違いなど、商品化の留意点の整理

●活動の効果

･売り切れになるほどの売れ行き
･新しい食材の組み合わせ方の創出（酢いか、ジンギスカン等の具材）

●今後の活動予定等

･具材検討のための試食会の開催
･地域イベント（ひらめオーナー）での萌天焼の実施販売

活動名称	トカプチ情報ボックス事業	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	十勝シーニックバイウェイ　トカプチ雄大空間		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標

トカプチ雄大空間エリア内の観光施設や観光拠点に情報ボックス（パンフレット設置ボックス）　を設置。トカプチ雄大空間作成のルートマップや各施設のパンフレットを配送し設置、観光客のお客様に各施設を周遊していただくことを目的としている。

●活動内容

【実施時期】４月～９月　　【設置箇所】１７箇所　　【配達回数】６回

●活動期間：２４年度～２７年度

②活動の体制

●検討：知る部会（部会長、幹事、部会メンバー）

●配送の流れ

トカプチ雄大空間メンバー → パンフレット送付 → パンフレット保管場所（トカプチ雄大空間メンバー施設） → 配送業者による配送･在庫確認･補充 → 観光拠点（トカプチ雄大空間メンバー施設）

③ＰＲポイント

●工夫した点や苦労した点

・情報ボックスの形状は各施設になじむようなデザインや材質（木製）とした。
・パンフレットの在庫確認や補充ができる配送システムを構築したことにより、パンフレットの在庫不足が解消された。
・部会の強化　⇒　部会メンバー自らが情報ボックスの設置状況を確認し現状を把握、棚割の検討を行った。

●活動の効果

・トカプチ雄大空間メンバーの施設間でお客様を送り合うことが可能なことから、お客様だけではなくメンバーにとっても重要なツールとして活用されている。
・主に観光施設に設置しており、メンバーの施設のパンフレットのみならず、地域の観光パンフレットなども設置しているため、お客様からの需要も高い。

【トカプチ情報ボックス】

●今後の活動予定等

・情報の発信箇所を増やしていくための新たな設置箇所の検討。
・情報ボックスの状態の確認、老朽化によるメンテナンス。
・全ての情報ボックスの設置状況を確認し現状を把握した上で、棚割の再検討を行い、棚割に沿った形で整理・整頓する。
・更なる情報発信強化のため、平成２８年度発行のトカプチマップに情報ボックスの設置情報を掲載する。

活動名称	フォトコンテスト&カレンダー	エントリー部門	活力ある地域づくり
ルート名称	十勝シーニックバイウェイ　南十勝夢街道		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標

南十勝は、四季折々の美しい景観が楽しめ、多くのカメラマンが撮影に訪れるとともに、地域にも数多くのアマチュアカメラマンがいる。地域の魅力を発信しエリアに訪問して頂く機会を作り、本ルートの景観の素晴らしさを多くの方に知ってもらえる活動を目指す。

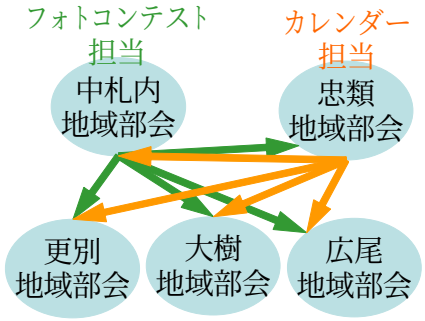
●活動内容

フォトコンテストを実施するとともに、より多くの方に南十勝の美しい景観を知っていただくためにフォトコンテストの入賞作品を中心としたカレンダーを制作している。応募作品の著作権はすべてルートに帰属し、ルートの広報PRに役立てている。この活動は候補ルートとなった平成18年より継続している当ルートの代表的な活動である。

●活動期間：１８年度～２７年度

②活動の体制

平成24年度より、これまで事務局が行っていた各活動の管理を地域部会に振り分け、活動の活性化を図っている。これによって、各地域部会の活動が活発化し、横のつながりも強くなった。



【フォトコンテスト募集チラシ】

③ＰＲポイント

●工夫した点や苦労した点

・カレンダーの制作費はカレンダー販売により賄われており、南十勝エリアの道の駅や商工会のほか平成23年からは札幌市内の書店等での販売を行っている。

・昨年度は使いやすさやを重視し、サイズなどのデザインを変更した。

●活動の効果

広域、継続的に周知を行った結果、過去最多の応募があった（H26～306点→H27～316点）。また、作品のクオリティが高いことから「入賞するのにはハードルが高い」という良い評判にもなっている。昨年度初めてカレンダーのサイズやスケジュール欄などデザインを変更したところとても好評であり、ルートの景観の素晴らしさを多くの方に知ってもらえる活動となっている。今年度はフォトコンテスト開催10周年目を迎えたことから、10年分の応募作品を活用し、写真集やマップを作成した。

●今後の活動予定等

継続していくことが重要であると考えているので、ニーズに合わせてマイナーチェンジしながら地道に続けていきたい。

【2016年カレンダー】

⑬

活動名称	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓･定山渓ルートカレンダー2016	エントリー部門	美しい景観づくり
ルート名称	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓･定山渓ルート		

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標

カレンダーを目にする人にルートの魅力と見どころを伝えるとともに、ルートに足を運んでもらうきっかけづくりを行う。

●活動内容

ルート内の美しい景観や地域活動の様子など、ルート内で撮影された魅力的な写真を使用したカレンダーを作成し、ルートの構成団体等を通じてルート内で配布したほか、地下歩行空間など札幌市中心部でも配布した。

●活動期間：２３年度～２７年度

②活動の体制

ルートのメンバーから選出した「カレンダー製作委員会」をつくり、製作した。
カレンダー製作委員会では、使用する写真を選考するほか、 レイアウトの詳細等を検討した。

③ＰＲポイント

●工夫した点や苦労した点

★今回のターゲットは、ルート以外の住民や観光客とし、カレンダーとしての用途よりも、
写真集のような美しい写真を部屋に飾って楽しんでもらうことを コンセプトとした。
そのため、カレンダーの文字欄を小さくし、写真を多数配置できるよう工夫を行った。

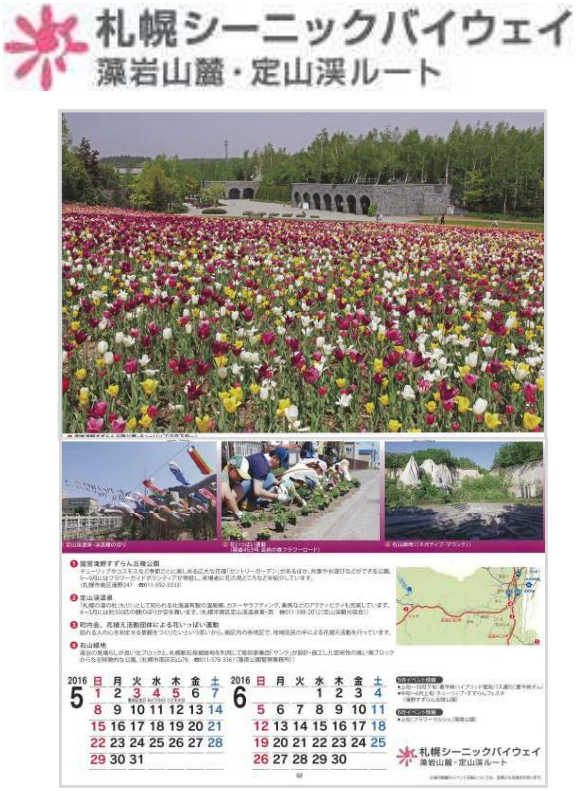
★写真は、シーニックメンバーが撮りためた写真や南区地域振興課、札幌市の観光写真ライブラリーより収集した。カレンダーに適した写真の収集と選考に苦労した。

●活動の効果

作成した18,000部は好評のうちに配布が完了し、ハガキなどで“カレンダーの写真が美しい”といった感想が寄せされた。手に取った方々へのルートの魅力ＰＲにつながったと考えられる。

●今後の活動予定等

景観写真がカレンダーのメインとなっていることから、H28は、景観部会がメインになり、カレンダーの作製を継続する予定。



【カレンダーデザイン】

南区の風景 暦に

区役所などで無料配布

札幌市南区の魅力を知ってもらおうと、札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート運営代表者会議は、深緑の森に囲まれたさっぽろ湖など南区内の四季折々の風景写真を集めた来年のカレンダーをつくった。南区役所などで無料で配っている。

同会議は、区内の町内会や商店街などで構成。観光客の誘致につなげるため、カレンダーを毎年つくっている。今年で5回目。

滝野すずらん丘陵公園のチューリップや、真駒内公園の桜などの写真のほか、南区内の観光施設案内を掲載している。

1万8千部作製。区役所や南区内の9カ所のまちづくりセンター、JR札幌駅の観光案内所などで配布している。問い合わせは南区役所地域振興課☎011・582・4723へ。

（相川康暁）

南区の四季折々の風景写真を集めたカレンダー

【11.28 北海道新聞夕刊】

⑭

活動名称	新たな景観ポイントの創出	エントリー部門	美しい景観づくり
ルート名称	層雲峡･オホーツクシーニックバイウェイ		

①活動概要

●活動の目的・目標：

国道からのアクセスが容易な箇所での新たな花による景観ポイントを創出し、ルート内で推進している域内の花施設を結ぶ周遊観光ルートである「花回廊ルート」に加えることにより、観光ルートとしての魅力を向上します。

●活動内容：

層雲峡・東オホーツクシーニックバイウェイの構成団体であるNPO法人ロサ・ルゴサが、市民有志手づくりによるバラ園「美はらしの丘ローズガーデン」をオープンしました。約9千平方メートルの敷地でバラ150種、400本　宿根草120種があり、国道駐車場からもアクセス可能で、休憩用ウッドデッキもあります。オープン前には紋別周辺のシーニックバイウェイ関係者が草むしり等の支援を行いました。

②活動の体制

企画・運営：NPO法人ロサ・ルゴサ（層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ構成団体）

協力：

・有志の紋別市民

・層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ構成団体
（中心的な役割：紋別観光協会、紋別商工会議所）

③ＰＲポイント

・沿道アクセスもよく、休憩デッキもあるため、シーニックデッキとして位置付けたい。

・一市民が有志を集い、長年かけて約9千平方メートル規模のガーデンを完成させました。

・ルートが推進する花回廊ルートの新たな資源として位置付けてPRしていきたい。

■開園概要

日時：平成27年6月20日(土)

場所：北海道紋別市大山町4丁目25-14

ウッドデッキも常設

国道238号駐車帯からアクセスできます。